姿勢変換機能付き車いす（CCTA コード　１２２１９０）

エム

ネッティem 取扱説明書

＊この取扱説明書は必要なときに取り出しやすい場所に保管してください。

ラック ヘルスケア株式会社

コード NO.2015.06

目次

タイトル　ページ

１．　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

１．１　品質と耐久性
１．２　環境問題への取組
１．３　安全にお使いいただくためのご注意
１．４　基本寸法

２．　ネッティｅｍ（エム）の仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

３．　概略・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

４．　各部の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

５．　組み立てと調節・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

５．１　開梱
５．２　メインホイール
５．３　フロントキャスタ
５．４　バックサポートの組み立て
５．５　座面奥行の調節
５．６　バッククッションの取り付け
５．７　シートクッションの取り付け
５．８　転倒防止バー
５．９　フットレッグサポート
５．１０　ヘッドサポート
５．１１　アームサポート
５．１２　駐車ブレーキの調節
５．１３　介助ブレーキ
５．１４　介助ハンドル（プッシュハンドル）
５．１５　座面角度（ティルト角度）調節の方法
５．１６　バックサポート角度（リクライニング角度）調節の方法

６．　取扱方法（操作方法）及び注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８

７．　メンテナンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21

８．　トラブルシューティング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22

９．　規格と保証について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23

１０．　寸法と重量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24

１１．　保証書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

１．はじめに

この度は車いす『ネッティ em（エム）』をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用前には、必ず「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全に使用してください。

ネッティ em（エム）は「EN12183:1999」に基づく品質テストを受けており、その品質はドイツのTÜVProduct service により認証された室内及び屋外利用のための車いすです。また、同商品はISO/FDIS7176/19 に基づく衝撃テストに関しても基準を満たしております。

ネッティ em（エム）は快適性と安心を求めるユーザーのために開発された車いすであり、ネッティ・シーティングシステムのもつ人間工学に基づいたフレームはユーザーにさまざまな適合と調節の可能性を提供します。

また、ティルト及びリクライニングの機能を活用することで、ユーザーに活動的な姿勢と安楽な姿勢の両方を提供することができます。

ご利用者最大体重：１３５ｋｇ

＊販売される国、地域により仕様が異なる場合があります。

１．１　品質と耐久性

ネッティ em（エム）はヨーロッパの品質規格 EN１２１８３/１９９９に基づきドイツの認証機関 TÜVProduct Service によってテストされています。製造メーカーである Alu Rehab A/Ｓ社として同規格は通常の使用において５－６年の耐用年数に該当すると考えておりますが、実際の車いすの耐用年数はユーザーの障害の程度と定期的なメンテナンスの頻度により変動するものです。

１．２　環境問題への取組

環境問題への取組として以下を実践しております。

- 環境に対し有害な物質の使用、製造プロセスをできる限り避けています。
- 環境的観点及び経済的観点より、長期にわたりご使用いただける商品開発を心がけています。
- 梱包に使われるすべての素材がリサイクル可能です。
- ネッティ em（エム）は各々の構成素材への分解がしやすく、リサイクルを考慮したデザインとなっています。

１．３　安全にお使いいただくためのご注意

ご使用に際しては、重大な事故や車いすへの損傷を避けるために、必ずご使用前にこの取扱説明書を熟読してください。

警告	この表示事項を守らずに、誤った取扱いをすると、重大な事故に繋がり、使用者が重傷を負う恐れがあります。
注意	この表示事項を守らずに誤った取扱いをすると、使用者が傷害を負ったり、物的損害をこうむる恐れがあります。
ⓘ	重要な情報を説明するマークです。

警告　この表示事項を守らずに誤った取扱をすると、重大な事故に繋がり、使用者が重傷を負う恐れがあります。

- フットサポートの上に立たないでください。前方へ転倒する危険があります。
- アームサポート、フットレッグサポート、ヘッドサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。
- ティルト角度、リクライニング角度を調節する際は、必ずブレーキと転倒防止バーが有効に機能していることを確認してください。
- バックサポート、介助ハンドル、ヘッドサポートに重い物を引っ掛けないでください。バランスを崩し後方へ転倒する恐れがあります。
- 車いす以外の目的に使用しないでください。
- 本製品は一人用です。複数の人数で乗らないでください。
- 車いすの分解、改造をしないでください。
  車いすの耐久性が低下し、事故の原因になる恐れがあります。
- 車いすを火気に近付けないでください。
- 高温な場所で保管しないでください。金属部分が熱くなりやけどする危険があります。

注意　この表示事項を守らずに誤った取扱いをすると、使用者が傷害を負ったり、物的損害をこうむる恐れがあります。

- ティルト・リクライニング角度やレッグサポート角度（エレベーティング）を調節する際は、車輪（メインホイール）やフレーム可動部に身体や衣服などを挟みこまないように注意してください。
- 車いすを移動する際は、車輪（メインホイール）などの可動部分に腕や指などを挟みこまないよう注意してください。
- 車いすの乗り降りは、平坦な場所で行ってください。
- ティルト角度、リクライニング角度を操作する際は、周囲にスペースがあることを確認してください。角度を変えると車いすの全長が変わり、壁や家具などを傷つける恐れがあります。
- ヘッドサポートを持って、車いすの移動や角度調節を行わないでください。
- 車いすを操作、調節する際はゆっくり動かしてください。急な操作を行うと、転倒・転落、ケガ等の原因となる恐れがあります。
- ヘッドサポートや介助ハンドルの調整ネジを締めすぎるとネジ山が潰れ固定できなくなる恐れがありますので注意してください。
- すべてのパーツ、ネジ及びナット等がしっかりと固定され、緩みが無いことを確認してください。

2．ネッティ em（エム）の仕様

シート	・ シートクッション ウノ（防水カバー）付 ・ ティルト角度　　：－５°～＋２０° ・ 奥行　　　　　　：３７.５ｃｍ～４５ｃｍ（2.5cm ピッチ）
タイヤ	・ メインホイール　：１6in 介助ブレーキ付ノーパンクタイヤ ・ キャスタ　　　　：5in ノーパンクタイヤ
バックサポート	・ バッククッション ウノ（防水カバー）付 ・ リクライニング角度：９２°～１３７° ・ 高さ　　　　　　　：５0cm ＊背張り調整付き、背張り調整無しのタイプがあります
フットレッグ サポート	・ 高さ及び角度調調節機能付 ・ 着脱可能 ・ カフサポート付
アームサポート	・ 高さ及び前後調節機能付／着脱可能
ヘッドサポート	・ Ａタイプ（防水仕様） ・ 高さ及び角度、奥行調節機能付／着脱可能

3．概略

このページでは説明書全体の概要を簡単にご説明しております。

- 車いすの開梱（5.1）
- メインホイールとフロントキャスタの確認（5.2）
- バックサポートとリクライニングシリンダーの接続方法（5.5）
- バッククッション、シートクッションの取り付け（5.6、5.7）
- フットレッグサポートの取り付け（5.9）
- ヘッドサポートの取り付け（5.10）
- 転倒防止バーの取り付け（5.8）

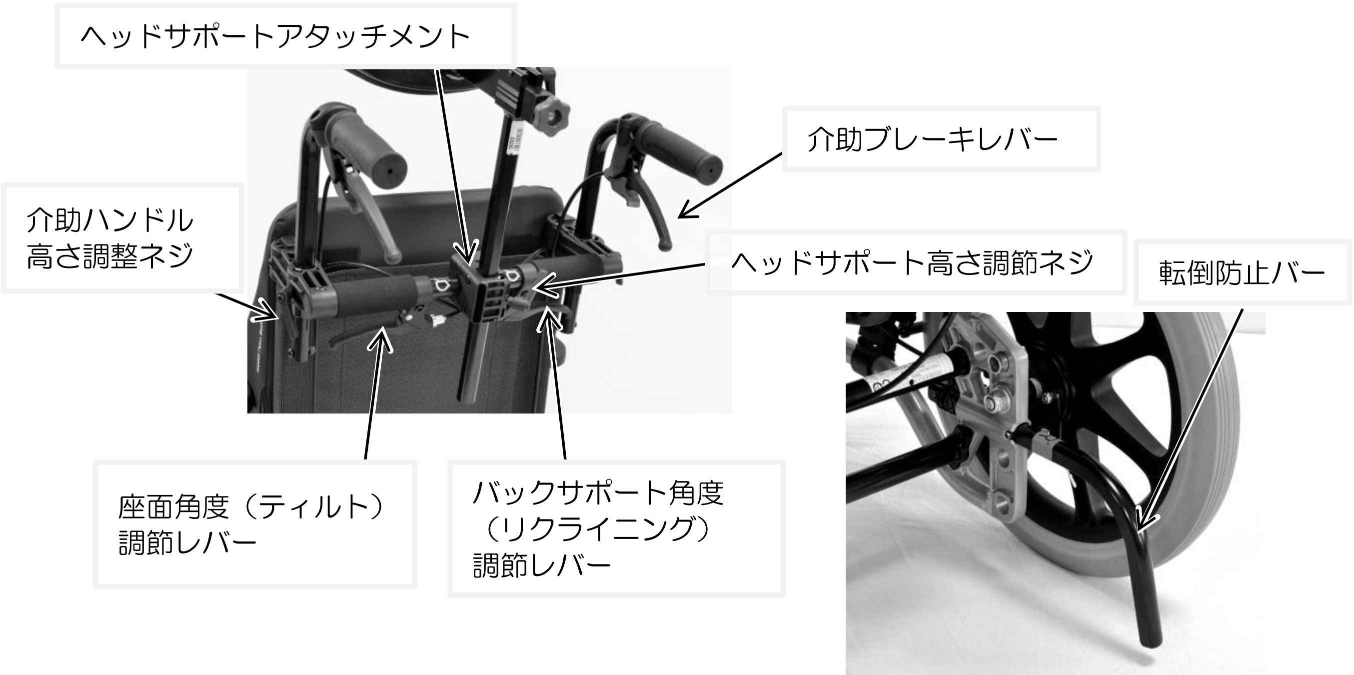
：トラブルシューティングについては（８）を、取り付けと調節については（５）をご参照ください。

３．１　同封部品の確認

本製品には以下の部品が同梱されていますので、ご確認ください。
（オプションパーツ、特別仕様は除く）

・本体フレーム　×1
・シートクッション　×1
・バッククッション　×1
・アームサポート　×２（左右：各1）
・フットレッグサポート　×２（左右：各1、カフサポートが付属しています）
・ヘッドサポート　×1
・転倒防止バー　×２
・メインホイール　×1（左右：各1、本体フレームに付属しています）
・フロントキャスタ　×２（左右：各1、本体フレームに付属しています）
・取扱説明書　×1

４．各部の名称



＊この他ご不明なパーツがございましたら、取扱店までお問い合わせください
＊この車いすは販売される国や地域により異なる場合がございます

5．組み立てと調節

5．1　開梱と組み立て手順

①すべてのパーツと添付されている資料を箱から取り出してください。
②メインホイールとフロントキャスタの取り付けを確認してください。
③バックサポート及びバッククッション、シートクッション、フットレッグサポート、アームサポート、ヘッドサポートを取り付けてください。
④介助ハンドル、その他オプションパーツがあれば取り付けてください。

＊必要な工具はそれぞれの項目で説明があります。

5．2　メインホイール

①メインホイールの裏側のナットに緩みがないか、確認してください。（5.2.1）

（5.2.1）

5．3　フロントキャスタ

①フロントフォーク及びキャスタに緩みがないか確認してください。

②フロントフォークはクイックリリースで取り外しが可能です。
取り外す際には、ボタンを押したままフロントフォークを下に抜いてください。取り付けする場合は、反対にボタンを押したまま、クイックリリース軸を差し込んでください（5.3.1）
③奥まで差し込んでから固定されているか必ず確認してください。（5.3.2）

（5.3.1）

（5.3.2）

⚠	警告	使用前に必ずメインホイール及びフロントキャスタが確実に固定されていることを確認してください。

⚠	警告	メインホイール及びフロントキャスタが固定されない場合には、使用を中止し取扱店にご連絡ください。

５．４　バックサポート

・バックサポートはリクライニングシリンダーをシリンダーブラケットに差し込み接続します。（5.4.1）

（5.4.1）

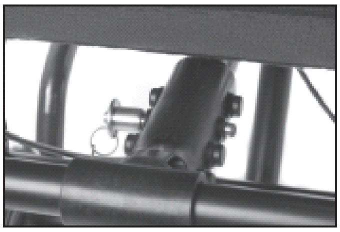
①シリンダーを差し込んでから、付属しているロックピンをシリンダーブラケットの横から差し込み、シリンダーと固定してください。（5.4.2）

②ロックピンはクイックリリースとなっていますので、ボタンを押しながら差し込んでください。
差し込み後、確実に固定されているか必ず確認してください。

（5.4.2）

警告	ロックピンを差し込んだ後、確実に固定されていることを必ず確認してください。

・シリンダーブラケットには４箇所穴が空いています。
ロックピンの差し込み位置は座面の奥行に合わせてください。

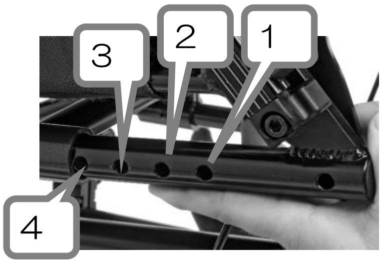


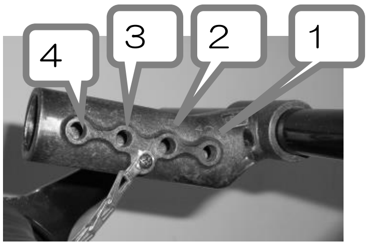
座面の奥行とシリンダーブラケットに関して

座面の奥行を調節する際には、右図を参考に奥行とシリンダーブラケットの位置を合わせてください。

異なる位置に設定した場合、バックサポートの角度調節（リクライニング）が正常に作動しない場合や、破損の原因となる可能性がありますのでご注意ください。

☆設定位置　①：３７．５ｃｍ
②：４０ｃｍ
③：４２．５ｃｍ
④：４５ｃｍ



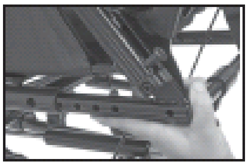


５．５　座面奥行の調節

①座面の奥行を調節する際には、バックサポートを固定しているロックピンを外し、バックサポートとリクライニングシリンダーを分離してください。（5.4.2）

奥行を短くする場合には、バックサポートをいっぱいまで倒してから外してください。

②バックサポートヒンジと本体フレームをつないでいるネジを外しバックサポートをスライドさせると奥行を調節できます。（5.5.1）



（5.5.1）

・奥行は、37.5cm～45cm まで４段階で調節可能です。

③奥行を調節した後は、〔5.4〕の手順に従いバックサポートを取り付けてください。

・奥行を調節した場合は、シリンダーブラケットにあるロックピンの差し込み位置も変わります。

＊６mm 六角レンチ×１本を使用します。

警告	調節後はバックサポートヒンジが確実に固定されていることを確認してください。

警告	ロックピンを差し込んだ後、バックサポートが確実に固定されていることを確認してください。

５．６　バッククッションの取り付け

バッククッションを利用者の状態に合わせて上下の位置を調節して取り付けてください。

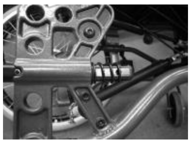
＊右の図は、背張り調整無しのタイプです。

５．７　シートクッションの取り付け

シートプレートの前端に合わせて、シートクッションを取り付けてください。

５．８　転倒防止バー

（5.8.1）


（5.8.2）

（5.8.3）

・　転倒防止バーの取り付け

①転倒防止バーを本体フレームに差し込みます。（5.8.1）
②バネを転倒防止バーに取り付けます。（5.8.2）
③ピンを転倒防止バーの先端に差し込み、
バネが外れないようにします。（5.8.3）

・　転倒防止バーの操作手順

①転倒防止バーを手前に引きます。

②転倒防止バーを１８０°回転させ、
下に向け、ロックさせます。

③転倒防止バーが固定され、車いすが
後ろに倒れないことを確認してください。

警告	車いすの介助ハンドル部分などに荷物など重いものを取り付けないでください。車いすのバランスが崩れ、後方に転倒する危険があります。

警告	安全に車いすをご使用いただくため、転倒防止バーは必ずご使用ください。

５．９　フットレッグサポート

・このレッグサポートは長さ調節と角度調節が可能で、必要に応じて取り外すことができます。
また、フットサポートの角度も無段階で調節可能です。

Ⅰ．レッグサポートの取り付け（5.9.1）
①フレームに対して２０°程外側に回転した状態で
垂直にレッグサポートを差し込んでください。
②次にレッグサポートを内側に回転させ、正面を
向くようにします。
③レッグサポートを下に押しこむと固定されます。

・取り外しの際には、上の手順と逆に行ってください。

（5.9.1）

Ⅱ．レッグサポートの角度調節

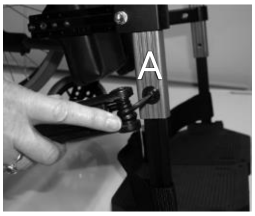
①レッグサポートについている星型のネジを緩めると
角度調節を行うことができます。（5.9.2）
②お好みの位置でネジを締めて固定してください。

（5.9.2）

Ⅲ. フットレッグサポートの長さ調節

・レッグサポートについているネジ〔A〕を緩めると
　長さの調節を行うことができます。（5.9.3）
・長さを合わせたら、ネジを締めて固定してください。

高さ調節ネジを外すと受け側のナットの位置がずれ固定できなくなります。
ネジを付ける場合は、ナットの位置を合わせてからネジを締めてください。

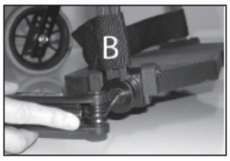


（5.9.3）

＊５mm六角レンチ×１本を使用します。

Ⅳ、フットサポートの角度調節

・フットサポートは無段階で角度を調節することが可能です。
・フットサポートの横にあるネジ〔B〕を緩めると調節ができます。
　調節後はネジを締めて固定してください。（5.9.4）



（5.9.4）

＊５mm六角レンチ×１本を使用します。

Ⅴ. フットサポートの固定と取り外し

・左右のフットサポートをつなげることで、安定性が増します。

①右足側のフットサポートにあるプラスチックロック（5.9.5）を
　スライドさせロックを外し、左足側のフットサポートにある
　ボルトから離します。
②右足側のフットサポートを上にあげると
　左右のフットサポートが外れます。

（5.9.5）

Ⅵ. フットレッグサポートの取り外し

・フットレッグサポートは、少し上に持ち上げてから
　外側へ回転させると取り外すことができます。
　（5.9.6）

（5.9.6）

Ⅶ. カフサポートの調節

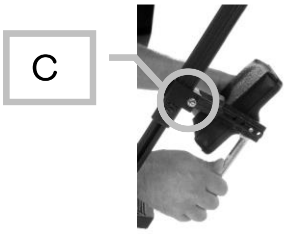
・カフサポートは高さと奥行きの調節が可能です。

・カフサポートの高さ調節は、カフサポートアダプターを止めている
ナット〔C〕を緩めると調節ができます。（5.9.7）

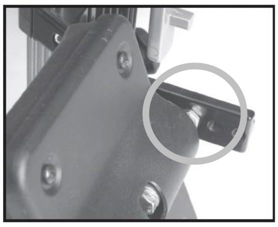
＊１０mmスパナ×１本を使用します。

・カフサポートの奥行き調節は、カフサポートパッドとカフサポートアダプターの間にあるナット（5.9.8）を緩めてカフサポートパッドを取り外し、取り付け位置を変更してください。奥行きは４段階で調節可能です。

＊１３mmスパナ×１本を使用します。



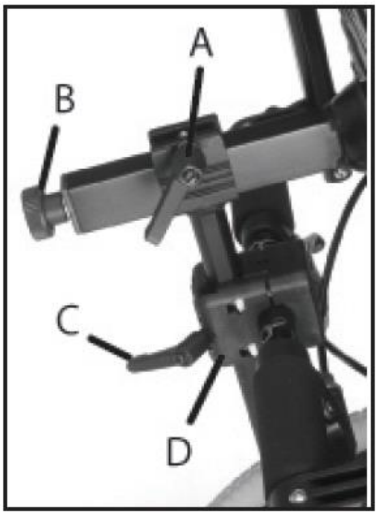
（5.9.7）



（5.9.8）

⚠	警告	フットサポートに足を乗せたまま、立ち上がらないでください。 前方へ転倒し、ケガをする恐れがあります。

5．１０　ヘッドサポート



A　：　奥行（前後）調節ネジ
B　：　角度調節ネジ
C　：　高さ調節ネジ
D　：　ヘッドサポートアダプター

①ヘッドサポートアダプターに調節ネジ（C）を付けてください。
②ヘッドサポートをアダプターに差し込んでください。
③ヘッドサポートの高さ、奥行、角度を利用者に合わせて調節してください。

- ヘッドサポートの位置が調節では合わない場合、ヘッドサポートアダプターの角度、位置を微調節することができます。
- 調節する場合は、ヘッドサポートアダプターの上にあるネジと内側にある４個のネジを緩めて調節してください。
- ネジを締める場合には、４箇所のネジを少しずつ順番に締めた後、ヘッドサポートアダプターの上にあるネジを締めてください。

注意	ヘッドサポートを持ってティルト・リクライニングを動かすことや、車いすを移動することは、パーツが破損する原因や、転倒の恐れがありますのでお止めください。

注意	各部の調節を行う際には、必ずネジを緩めてから調節を行ってください。 ネジを緩めずに調節を行うと、破損の原因となります。

注意	高さ調節ネジと奥行調節ネジは締めすぎに注意してください。 ネジを締めすぎるとネジ山が潰れ、固定ができなくなります。

５．１１　アームサポート

ネッティ em（エム）のアームサポートは、高さ調節、パッドの前後調節が可能です。
また、取り外しができます。

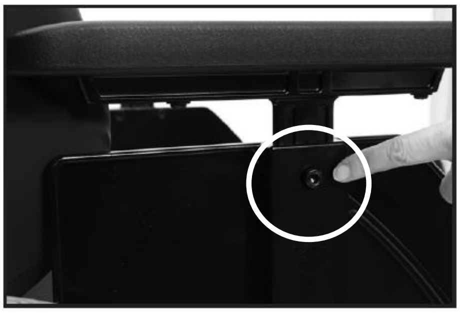
Ⅰ．アームサポートの取り外し

アームサポートパッドを持ち（5.11.1）アームサポートを引き上げると外すことが可能です。

（5.11.1）

Ⅱ．アームサポートの高さ調節

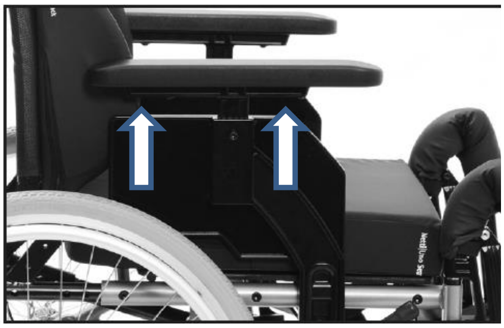
アームサポートについているネジを緩めると
高さの調節ができます。（5.11.2）



（5.11.2）

Ⅲ．アームサポートパッドの前後調節

アームサポートパッドの裏面にあるネジを緩めると、
前後の調節ができます。



注意　アームサポートを取り付ける際は、左右を間違えないように注意してください。

注意　アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。
車いすの破損やケガにつながる恐れがあります。

注意　ご使用の前に、アームサポートの高さ調節及び前後調節のネジが固定されていることを確認してください。

注意　アームサポートパッドに重いものを乗せるなど、過度な荷重をかけないでください。

５．１２　駐車ブレーキの調節

・ブレーキレバーを前方へ押すと、ブレーキがかかります。(5.12.1)
・ブレーキレバーを後方へ引くと、ブレーキは解除されます。(5.12.2)

(5.12.1)

(5.12.2)

①ブレーキ位置を調節するには、ブレーキクランプの内側にある２本のネジを緩めてください。(5.12.3)

②クランプの位置を決めたら、ネジを締めてください。

③クランプを設定した後の微調節は、クランプの上にあるネジ（5.12.4）を緩めると調節できます。

④ブレーキ調節を行った後は、ネジが適切に締められていることを確認し、ブレーキの効きを確認してください。

＊５mm六角レンチ×１本を使用します。

(5.12.3)

(5.12.4)

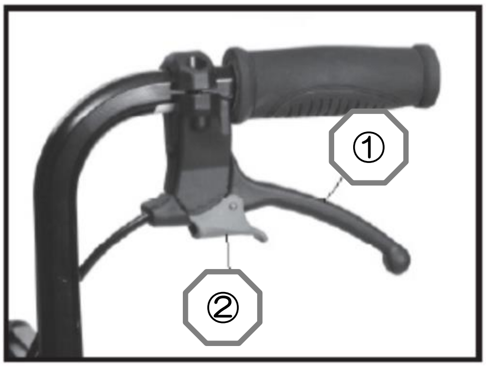
警告　ご使用の前に、駐車ブレーキの効きを必ず確認してください。

警告　移乗や、ティルト・リクライニングの角度調節をする際は、必ず駐車ブレーキをかけ転倒防止バーを下にさげてください。

５．１３　介助ブレーキ

Ⅰ．介助ブレーキの使用方法

左右の介助ブレーキレバー（①）を同時に握ると
介助ブレーキがかかります。

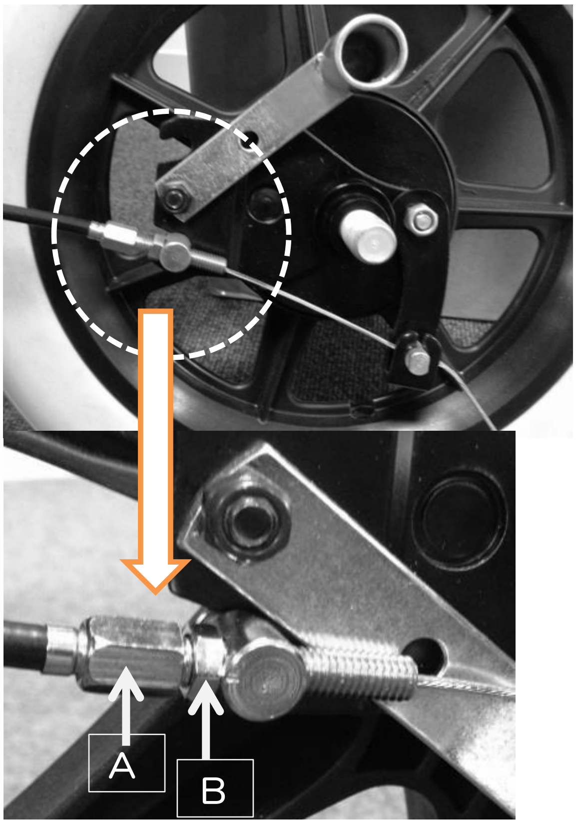


介助ブレーキレバーの握ったまま、ロックレバー（②）を
矢印の方向に動かすと、介助ブレーキがロックします。

Ⅱ．介助ブレーキの調節方法

介助ブレーキの調節をするには、Bのナットを
緩め、Aのネジを反時計回りに回転させると
ブレーキの効きが強くなります。

ブレーキの調整が終わりましたが、Bのナットを
締め、固定してください。

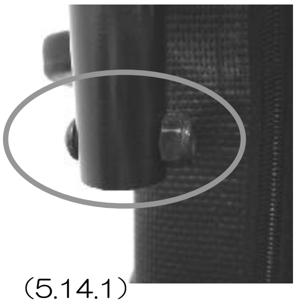


警告	介助者が車いすから離れる場合、移乗やティルト・リクラインング角度を調節する場合や車に積み込み移動する場合には、パーキングロックではなく駐車ブレーキをかけてください。

５．１４介助ハンドル（プッシュハンドル）

・介助ハンドルの取り付け方法

①介助ハンドルに付いているボルトと
ナットを外します。(5.14.1）
②車いすの介助ハンドル高さ調製ネジを
緩めます。(5.14.2）
③介助ハンドルを差込み、高さ調製ネジ
を締めます。
④介助ハンドルに①で外したボルトと
ナットをつけます。



(5.14.1）

(5.14.2）

・介助ハンドルの高さ調節方法

①介助ハンドルを固定しているネジを、反時計回りに
回転させると、固定が解除され高さ調節が可能になります。
ハンドルを上下させて高さを調節してください。(5.14.2）

②高さが決まったら、ネジを締めてください。

⚠	警告	車いすの介助ハンドル部分などに、荷物など重いものを取り付けないでください。車いすのバランスが崩れ、後方に転倒する危険があります。
⚠	注意	高さ調節をする際は、指などの挟みこみに注意してください。 ケガにつながる恐れがあります。
⚠	注意	介助ハンドルは、必ず固定ができる位置でご使用ください。 固定をせずに使用すると車いすの破損や、ケガにつながる恐れがあります。

５．１５　座面角度（ティルト角度）の調節方法

座面角度（ティルト）は介助ハンドル（プッシュハンドル）の左側にあるレバーを握ると、
-５°～２０°（前傾５度～後傾２０度）の範囲で調節できます。

レバーを離すと角度が固定されます。

5．１６　バックサポート角度（リクライニング角度）の調節方法

バックサポート角度（リクラニニング）は介助ハンドル（プッシュハンドル）の右側にあるレバーを握ると、９２°～１３７°の範囲で調節できます。

レバーを離すと角度が固定されます。

＊グリップには、それぞれの機能を示すステッカーが貼ってあります。

〔リクライニング〕

〔ティルト〕

〔リクライニング〕
背もたれ角度調節機能

〔ティルト〕
座面角度調節機能

警告	移乗や、ティルト・リクライニングの角度調節をする際は、必ずブレーキをかけ、転倒防止バーを下にさげてください。

注意	ヘッドサポートを持ってティルト・リクライニングを動かすことや、車いすを移動することは、パーツが破損する原因や転倒する恐れがありますのでおやめください。

ティルト及びリクライニングの操作は、介助者が横に立ち操作することをお勧めします。
車いすの後ろに立ち操作を行う場合に比べ介助者の負担が少なく、また、ご利用者の状況も確認できるため安全に行うことができます。

ティルトとリクライニングの角度調節は同時に行わず、『ティルト角度→レッグサポート角度（エレベーティング）→リクライニング角度』の順番で操作することをお勧めします。

ティルト操作時

リクライニング操作時

後ろから角度調節を行う場合は、十分注意してください。

操作の順番はメーカーが推奨する方法であり、ご利用者の状況・状態やご使用の目的によって、操作は異なります。

注意	リクライニング角度調節を行う場合、アームサポートとバックサポートの間に腕などの挟みこみが無いことを確認してください。

注意	ティルト・リクライニングの角度調節を行う場合は、可動部やフレームの隙間に身体や衣服などを挟みこまないよう注意してください。

注意	ティルト・リクライニングの角度調節を行う場合は、必ず平らな場所で操作してください。坂道や段差のあるところで操作するとバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

注意	ティルト・リクライニングの角度調節を行うと、車いすの全長が変わります。家具や壁の側で操作を行うと、ぶつかる可能性があり危険ですので、周囲にスペースがあることを確認してから角度調節を行ってください。

６．取扱方法（操作方法）及び注意事項

警告	バックサポートに重いものをひっかけないでください。 車いすのバランスが崩れ、転倒事故の原因となります。
	移乗する際や、ティルト・リクライニングの角度調節を行う場合には、必ずブレーキをロックし転倒防止バーを下に向けてください。
	アームサポート、フットレッグサポート、ヘッドサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。
	ご利用者が乗っている状態で、車いすを持ち上げないでください。
注意	フットサポートの上にのって乗り込んだり、フットサポート上で立ち上がらないでください。 車いすのバランスが崩れ、転倒事故の原因となります。
	介助者がついている場合を除き、転倒防止バーを下に向けて使用してください。
	段差の乗り越えや外出時には、フットサポートと地面の間に十分な隙間があることを確認してください
	ご使用の前にブレーキの効きを確認してください。

６．１　基本事項

車いすの操作は、ご利用者の身体状況や着座位置、車いすの重心、セッティングにより影響が変わり駆動効率に影響します。メインホイールに乗る荷重の割合が高くなるほど駆動効率は高くなり、フロントキャスタへの荷重が高くなれば駆動効率は悪くなります。

６．２　段差を昇る場合

①前進で乗り越える場合
- 転倒防止バーが上向きになっていることを確認してください。
- 車いす全体を後方に傾けてフロントキャスタを浮かせてください。
- 段差の上にフロントキャスタを乗せ、直進してください。

②後進で乗り越える場合
- 転倒防止バーが上向きになっていることを確認してください。
- 車いすを後方に傾け、少しだけフロントキャスタが浮くようにしてください。
- 車いすを引いて段差を乗り越えます。この際、フロントキャスタも段差の上に乗せられるように十分に後方まで引いてください。

６．３　段差を降りる場合

①前進で降りる場合
- 転倒防止バーが上向きになっていることを確認してください。
- 車いすを後方に傾け、少しだけフロントキャスタを浮かせてください。
- 車いすを前方に進め、メインホイールを段差の下に接地させ、フロントキャスタを降ろします

②後進で降りる場合
- 転倒防止バーが上向きになっていることを確認してください。
- メインホイールを段差から降ろし、車いすを後方に少し傾けフロントキャスタを少し浮かせてください。
- 車いすを後進させ、フロントキャスタをゆっくりと接地させてください。

注意	段差の乗り降りをする場合には、十分なスペースがあることを確認してください。
	ご利用者が前方に転倒する恐れがありますので、十分注意してください。
	段差の乗り降りをした後は、必ず転倒防止バーを下に向けてください。

６．４　スロープ、坂道での操作

・スロープや坂道の途中で車いすの向きを変えないでください。
・スロープや坂道に対して、車輪が垂直になるように設定してください。
・スロープ上でバランスを崩さないように注意してください。

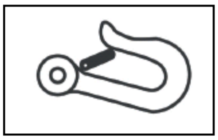
６．５　移乗

車いすからの移乗、車いすへの移乗については、ご利用者本人も含めて十分な練習を行ってください。
準備として下記の通り、注意事項を確認してください。

・車いすを移乗する先（ベットなど）にできる限り近づけてください。
・転倒防止バーを下に向けてください。
・確実にブレーキをかけてください。
・乗り移りを行う側のアームサポート、フットレッグサポートを取り外してください。
・外していない側のフットサポートは上げてください。
・フットサポートに足を乗せての移乗は、行わないでください。

６．６　搬送について

・車いすを車に固定するためのベルトは、安全ベルトとは異なります。
　ご利用者の安全を確保するために安全ベルトを使用することをお勧めします。
・ヘッドサポートを適切にセッティングしていれば頭部は安定しますが、車で搬送を行う際には
　十分でないことがあります。
・車いすの本体フレームには、ベルト固定位置を示すマークを
　４箇所シールで示しています。



・フレーム前方は右図（6.6.1）のように固定してください。

（6.6.1）

・フレーム後方の固定は、「トランスポート・アタッチメント」を
　取り付け、固定することをお勧めします。（6.6.2）

（6.6.2）

＊固定用のベルトは、０～４５°の範囲で取り付けてください。

７．メンテナンス

７．１　メンテナンスの方法について

ネッティ em（エム）はモジュール車いすです。各部のパーツを交換することで長くご愛用いただくことが可能です。取り付けや交換方法については、各パーツの説明書を確認いただくか、取扱店にご相談ください。

：小さな傷や塗装に関しては補修ペイントで修理することが可能です。
取扱店にご相談ください。

：不具合や破損が発生した際には使用を中止し、取扱店にお問い合わせください。

：ボルトやナットがしっかりと固定されているか、点検と調節を行ってください。

＊確認・点検頻度の目安

確認・点検内容	使用前	毎月１回
破損や不具合の有無（欠損しているパーツの有無）	○	
車いすの洗浄（拭き掃除など）		○
クッションの洗浄		○
転倒防止バー	○	
ブレーキの効き具合	○	
タイヤの磨耗		○
ティルト・リクライニングの効き	○	

７．２　洗浄と消毒

① 車いす本体を洗浄する前にシートクッションを取り外してください。
② クッションカバーに印刷された洗浄方法に基づいて、シートクッションとカバーを洗浄してください。
③ 本体フレームを水拭き、もしくは中性洗剤で拭き掃除してください。
④ 高圧水流などの機器を使用する場合は、ガスシリンダー、各種ラベル、バッククッションに当たらないように注意してください。
⑤ 洗浄に際しては、中性洗剤をご使用ください。
⑥ 洗浄後は洗剤を洗い流し、水分を拭き取ってください。
⑦ 乾燥機などはご使用できません。
⑧ 本体フレームはアルコール溶剤での清拭は可能です。
⑨ 強いオゾンなどで消毒されますと、タイヤやクッションの変色や劣化の原因となります。
⑩ 水分を含んだ状態で、長時間おくとサビやカビの原因となります。

８．トラブルシューティング

状態	原因／対応	参照箇所
車いすがまっすぐ走行しない	・メインホイールのハブが適切に固定されていない。 ・片側のブレーキを強く締めすぎている。 ・ユーザーが左右に偏った座り方をしている。 ・ユーザーの力に左右でバラつきがある。	５．２ ５．３
車いすを駆動させると重い	・メインホイールのハブが適切に固定されていない。 ・メインホイール、フロントキャスタの汚れや髪の毛、糸くずなどを取り除いてください。 ・フロントキャスタに過大な荷重がかかっている。	５．２ ５．３
車いすが上手く回転しない	・フロントキャスタが強く締め付けられていないか確認してください。 ・メインホイール、フロントキャスタの汚れや髪の毛、糸くずなどを取り除いてください。 ・フロントキャスタが適切な位置にセットされているか確認してください。	５．３ ５．３
ブレーキの効きが悪い	・ブレーキを調節してください。	５．１１
車いすがゆがむ	・各部のネジやボルトがしっかりと固定されているか確認してください。 ・フロントフォーク、メインホイールがしっかりと固定されているか確認ください。	

９．規格と保証について

ネッティ em（エム）は屋内・屋外両用としてテストされており、
その品質には CE マークが付与されています。

ご利用者最大体重：１３５ｋｇ

TÜV Product Service GmbH
EN１２１８３：１９９９.

衝撃テスト：ISO７１７６/１９に沿ってテストされ認定されています。

CE マークが付与されています。
CE マークは EU 域内での医療器具として、
必要な要件を満たした商品に付与されます。

○保証について

- 保証内容については添付の保証書をご確認ください。
- 製造メーカーである Alu Rehab 社が同意している一部の商品を除き、他社商品と組み合わせてご使用になる場合、すべての商品保証や CE マークは無効になります。
- 取扱説明書にない調節、セッティング、ならびに改造はすべて特殊な仕様に該当します。この場合、すべての商品保証は無効となります。
- 特殊仕様、特別調節を行う前に、必ず弊社までお問い合わせください。

１０．寸法と重量

項目	規格	備考
座幅（mm）	４００	
全幅（mm）	５８０	
全長（mm）	９４０	
全高（mm）	１０９５	
前座高（mm）	４１５	床面からシートプレートまで
座面奥行（mm）	３７５～４５０	シート前端からバックサポートヒンジまで
アームサポート高さ（mm）	２５５～３９０	無段階調節、パッド前後調節可能
レッグサポート高さ（mm）	３９０～５２０	エレベーティング式、カフサポート付
座面角度（ティルト角度）	-5°～２０°	
リクライニング角度	９２°～１３７°	
メインホイール	１６インチソリッド	介助ブレーキ付
フロントキャスタ	5インチソリッド	
ヘッドサポート	Ａタイプ	防水カバー仕様
バッククッション	400×500（幅×高さ）	名称：バッククッションウノ（防水カバー仕様）
シートクッション	400×450（幅×長さ）	名称：シートクッションウノ（防水カバー仕様）
本体重量（ｋｇ）	約３０ｋｇ	標準仕様の場合
ご利用者最大体重（ｋｇ）	１３５	
フレーム	アルミ製	カラー：グレー

＊　サイズは採寸の方法により、±１０mmの誤差がでる場合があります。
＊　各部の調節範囲は、設計時のサイズです。設定により調節できない場合がございますので、ご了承ください。
＊　上記は仕様変更などにより、予告なく変更する場合があります。

LAC

ラック ヘルスケア株式会社

大阪　〒542-0081
大阪市中央区南船場 2-10-2
TEL：06-6244-0636　FAX：06-6244-0836
東京　〒108-0014
東京都港区芝 3-43-16 KDX 三田ビル 11F
TEL：03-5419-8050　FAX：03-5419-8051
九州　〒862-0924
熊本市中央区帯山 2-1-23 パークヒル帯山
TEL：096-340-8101　FAX：096-340-8102